



## &lt;来週の資金需給予想とイベント予定&gt;

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
4/1 (月)	+ 800	+ 27,100	+ 27,900	国債発行償還 (2年)	CP等買入 国債補充供給 ▲ 7,700 + 36,600	CP等買入 + 4,000	日：日銀短観 (3月調査) 米：ISM製造業景況指数 (3月)
4/2 (火)	+ 1,000	+ 4,000	+ 5,000				米：求人件数 (2月) 製造業受注 (2月) 欧：ユーロ圏製造業PMI (3月)
4/3 (水)	トン	▲ 34,000	▲ 34,000	国債発行 (10年) 法人税・消費税・保険揚げ 普通交付税	共通担保 ▲ 23,400		米：ADP雇用統計 (3月) ISM非製造業総合景況指数 (3月) 欧：ユーロ圏CPI (3月)
4/4 (木)	トン	+ 3,000	+ 3,000	国庫短期証券発行償還 (3M)			日：日銀支店長会議 地域経済報告 (さくらレポート) 米：新規失業保険申請件数 (3月30日終了週) 貿易収支 (2月) 欧：ユーロ圏総合PMI (3月)
4/5 (金)	トン	▲ 9,000	▲ 9,000	国債発行 (30年)			日：景気一致指数 (2月) 景気先行CI指数 (2月) 米：雇用統計 (3月)

## &lt;インターバンク&gt;

日銀当座預金残高は週初、553兆8,200億円から始まった。その後、年度末特有の財政資金の支払や国債買入オペ等の要因により増加基調をたどり、29日には561兆1,900億円 (速報) で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.077%から始まり、その後28日まで取り手の調達意欲は底堅く、同金利は横ばい圏で推移した。年度末となる29日には一部金融機関が調達を見送ったことから同加重平均は0.074% (速報) となった。

ターム物は1W~1M物を中心にプラス金利で散発的に出合った。

来週の予定は、国内では1日に日銀短観 (3月調査) の公表、4日に日銀支店長会議の開催、海外では3日にユーロ圏CPI (3月)、4日に米貿易収支 (2月)、5日に米雇用統計 (3月) の公表などがある。

## [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.07 ~ 0.077
1M	0.07 ~ 0.20
2M	0.10 ~ 0.30
3M	0.10 ~ 0.30
6M	0.15 ~ 0.30

## &lt;レポ&gt;

足許GCは週を通して0%~+0.03%のレンジを中心に推移したが、ボラティルな展開であった。3月末初物受渡となる28日の取引も特段の波乱は無かった。輪番オペがオフアされた28日は一時▲0.01%まで低下した。

SC取引は2年438~458回債、5年149~166回債、10年350~373回債、20年180~187回債、30年65~81回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

## [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.030 ~ 0.050
CP 3M	0.10 ~ 0.25

## &lt;CP&gt;

今週の入札発行総額は約2兆500億円で、週間償還額の約5兆5,000億円を下回った。発行市場は、鉄鋼や石油、卸売業等で大型の発行が見られたものの、決算期末の有利子負債削減のため大幅な償還超となった。今月21日から新たな金融市場調節方針が適用され、一部の発行体では市場環境を見定める目的から発行に慎重な姿勢も見られたこと等から、期明け初日の発行総額は約7,800億円と、昨年 (1兆1,700億円) 比で大きく減少した。発行残高は先週末時点の25兆9,827億円から3月28日時点で24兆7,217億円に減少した。発行レートは、引き続き目線感を探る展開となったものの0.1%~0.2%を中心にややレンジの広い出合いが見られた。26日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でおアされた。結果は、按分レート0.080% (前回0.032%)、平均落札レート0.124% (同0.057%) と按分レート、平均落札レート共に前回比で上昇した。

来週の償還額は、約2,700億円となっている。発行市場は、調達環境を見極める展開が続くながらも期明けの発行ニーズは潜在していると思われる、事業法人を中心に発行再開の本格化が見込まれる。発行レートは、目線感の落ち着きを探る展開が見込まれる。

## &lt;TDB&gt;

今週のTDB入札は実施されなかった。

来週は4月3日、4月5日に3Mの入札が予定されている。